

赤川 砂防だより

みんなで防ごう土砂災害



発行 新庄河川事務所
赤川砂防出張所
第70号 平成24年1月

新年のごあいさつ



あけましておめでとうございます。本年も「赤川砂防だより」を
よろしく願い申し上げます。

昨年は、東大鳥川砂防堰堤の建設用の工事用道路として、県道改
良工事と合併施工した一般県道鶴岡村上線の荒沢工区の工事が完了
し、供用開始されました。これにより幅員の狭い荒沢隧道を通るこ
となく、鶴岡市内から大鳥地区へ通行できるようになり、地域の皆
様の日常生活における交通安全の確保はもちろん、赤川流域の砂防
事業の工事の推進にも大きく寄与することが期待されます。

地すべり対策事業においては、月山地すべり対策事業として、鶴岡市田麦俣地区に集水井を
2基完成することができました。
これもひとえに地域の皆様のご協力の賜と、深く御礼申し上げます。

本年も職員一同、砂防事業、地すべり対策事業を推進いたす所存ですので、今後とも「赤川
砂防出張所」をよろしく願い申し上げます。

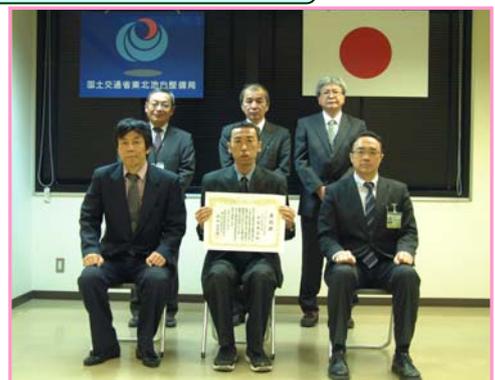


東北地方工事安全施工推進大会 (SAFETY2011) !!



大会スローガン
『安全は 家族の願い 企業の礎 創ろう元気な日本』

「東北地方工事安全施工推進大会 (SAFETY2011)」
が平成23年11月10日(木)、仙台市青年文化センターにお
いて開催され、赤川砂防出張所管内で施工した「赤川流域
荒沢3号橋床版工事」の現場代理人 (株) 佐藤工務の
菅原史喜 氏が東北地方整備局長より表彰されました。



※ この大会は、東北地方整備局と東北6県、仙台市、東日本高速道路(株)などの関係機関からなる実行委員
会により、東北地方における公共工事の安全施工の啓発と事故撲滅を目的として開催されています。
当委員会が発注した工事において、事故防止に積極的に取り組み、安全施工に貢献のあった現場代理人を表
彰しています。

『荒沢3号橋床版工事における』事故防止への積極的な取り組み

- ① 作業員参加型の施工前検討会を実施し、作業員の意見を積極的に取り
入れ、未然に事故の発生要因を抽出し問題点を取り除いた。
- ② 現場内は携帯電話の不感地帯であったことから緊急連絡方法として、
「PHS」を採用し緊急時の連絡体制を確保した。
- ③ 降雪期において、高所作業である床版の足場解体に橋梁点検車を採用
した。(写真参照)
- ④ 資材搬入時に通行する照明施設のない供用前のトンネル内の安全確
保として、カラーコーン及び照明設備の導入や配置を考慮して設置
した。





県道鶴岡村上線 荒沢工区開通



【県道鶴岡村上線付替工事（赤川工事用道路）事業概要】

赤川水系の直轄砂防事業は、昭和62年度に着手してこれまで砂防堰堤16基を完成し、事業を進めています。しかし、上流の荒廃地状況からすれば今後数多くの大型砂防施設を建設する必要があります。

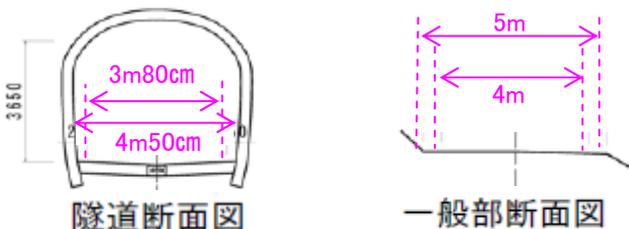
砂防施設の建設にあたり、一般県道鶴岡村上線を通行しなければならず、現況の道路幅員で工事車両が往来した場合、一般車両に対しては「荒沢隧道のトンネル区間は見通しの悪い1車線でトンネル内外での待避による交通障害、通勤の安全確保」等が懸念され、工事費用に関しても「資材運搬時間の大幅な増加に伴う資材の高騰」等の問題がありました。

これらの問題を解決すべく国土交通省と道路管理者の山形県とが協議を重ね、工事用道路と県道の改築計画との合併施工を平成9年度から着手し、大鳥工区については平成13年に完成し、今回は荒沢1号橋から河倉沢橋までの区間が完成して1,060mを供用できるようになりました。

整備前



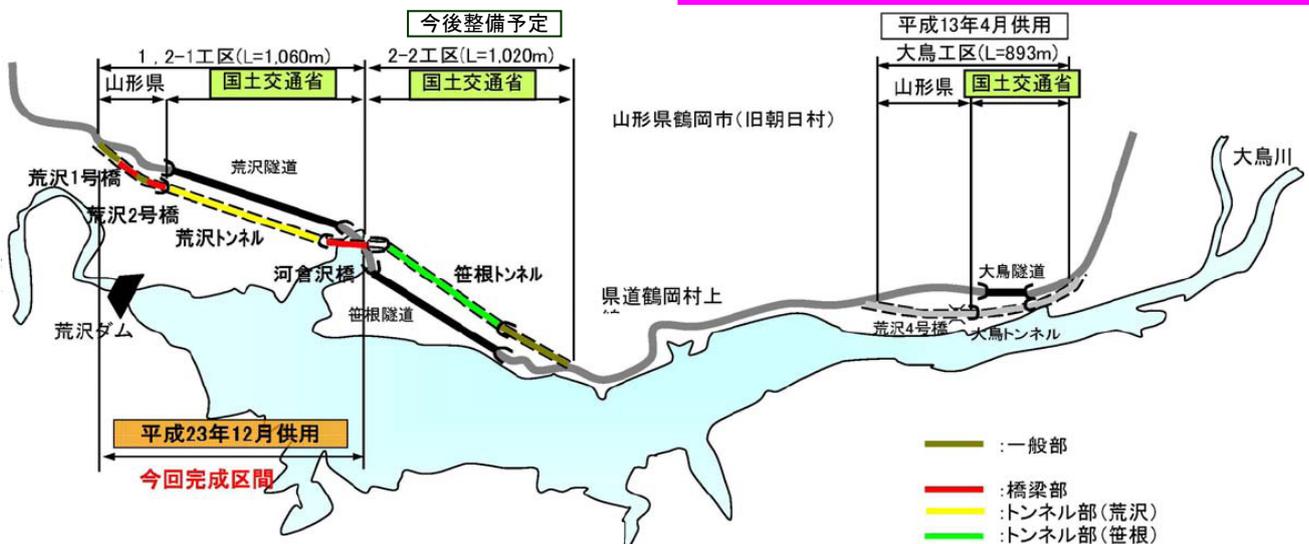
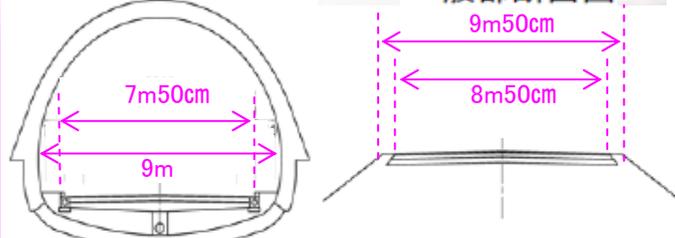
これまでの「荒沢隧道」



整備後



新設した「河倉沢橋」と「荒沢トンネル」



くす玉開披

荒沢トンネル



見学会

荒沢工区の一部供用が平成23年12月1日正午から開始されるのを前に午前11時から地元の鶴岡市が中心となり、地域住民及び関係者がテープカットや見学通行を行い祝いました。

見学通行



工事進捗状況の紹介

着々と工事が完了しております!

○赤川砂防管内施設整備工事

『赤川砂防管内施設整備工事』は、12月で工事が完成しております。

大雨が降った時に砂防堰堤や周囲の状況を遠隔操作ができるカメラで、素早く現地状況を把握し、適確な対応を目的として、災害時でも使用できるように光ケーブルの地下埋設化を進めるため、管路を県道349号鶴岡村上線の道路の地下に埋設しました。



○早田川砂防堰堤改良ほか工事

『早田川砂防堰堤改良ほか工事』は、12月で工事は終了しております。

現在の「早田川砂防堰堤」は。スリット（すき間）があり、平常時は土砂が堰堤に溜まらず、効果量を確保し魚類も遡上できます。洪水時には上流からの土石流を捕捉して土砂災害を防止する役割があります。

この工事では、流下する土砂等の衝突により砂防堰堤が損傷されたり、破壊されるのを防ぐために耐久性に優れた保護材を使用して、スリットが入っている砂防堰堤を補強する目的があります。



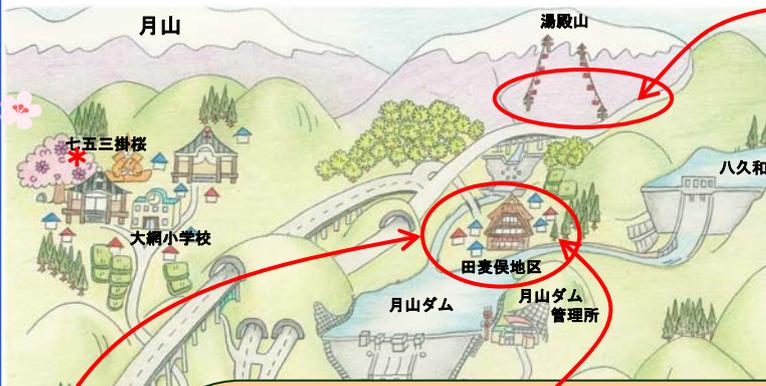
昨年の12月に工事が無事故で完了することができました。工事期間中は工事車両の通行により現場近隣の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

工事に対するご理解とご協力、大変ありがとうございました。



工事進捗状況の紹介

着々と工事が完了しております!



◎岩菅沢工事用道路

岩菅沢下流の田麦俣地区や生活に重要な役割を果たしている国道112号を土砂災害から守るため、岩菅沢に完成済みの2基を含む、合計8基の砂防堰堤群を造る事業が計画されています。

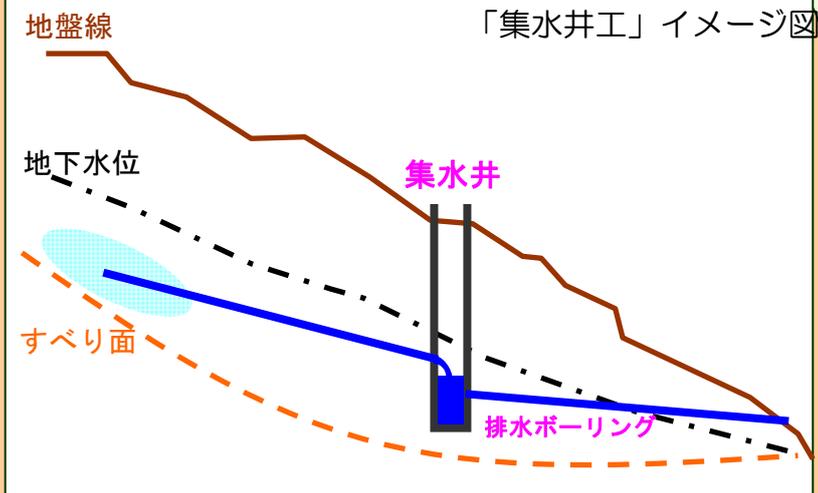
砂防堰堤を造る前に本年度は、大型の工事用車両が通行できるように、延長316mの工事用道路の整備に着手しております。

◎田麦俣7号集水井 完成!!

『田麦俣7号集水井工事』

は、11月で工事は終了しております。田麦俣地区の地すべりを防止するための工事で、深さ18mの集水井を掘り、長さ55mの集水ボーリングを15本掘削して施工しました。

この集水井工というのは、右図の様に「集水井」という深い井戸を掘り、横に集水ボーリングを扇状に行い、地下水を集め、排水管（排水ボーリング）を通して、集めた地下水を外に流す工事です。



「集水井工」イメージ図

◎田麦俣6号集水井 完成!!

『田麦俣6号集水井』につきましては、9月で工事は終了しております。集水井の深さは21mで、長さ50mの集水ボーリングを15本掘削して施工しました。

この工事は、地すべり対策として、地すべりが起こらないように集水井を造り、地すべりの原因となる地下水を排水して、地すべりを防止するために施工しました。

集水ボーリングの状況



ボーリングマシン

お問い合わせ先

国土交通省 新庄河川事務所
赤川砂防出張所

HPアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/shinjou/>
Eメール shinjou@thr.mlit.go.jp

〒997-0404 鶴岡市下名川字落合227
TEL 0235-53-2841 FAX 0235-53-2807

ご覧いただいた感想や、砂防事業・国土交通省の事業へのご質問、ご意見をお寄せください。



レッド君